

2010年12月刊行予定

# 満濟准后日記人名索引 全1冊

満濟准后日記研究会 編 A5判上製・函入・440頁 (予定)

定価 11,550円 (本体 11,000円 + 税 5%) ISBN978-4-8406-2074-1 C3021

## 満濟准后日記 全2冊・完結

まんさいじゅごうにつき

続群書類従補遺 1 上・下

B6判 揃1,206頁 揃10,500円 (本体10,000円+税5%)

(上)ISBN4-7971-0110-5 (1928.5)

B6判 544頁 5,250円 (本体5,000円+税5%)

(下)ISBN4-7971-0111-3 (1928.1)

B6判 662頁 5,250円 (本体5,000円+税5%)

室町時代黒衣の宰相と称された満濟の応永18年(1411)から永享7年(1435)の日記。満濟は権大納言今小路師冬の子で、後に室町將軍家足利義満の猶子となり、醍醐寺三寶院賢俊の室に入って得度した。応永2年醍醐寺座主に補してより東寺長者・四天王寺檢校を歴任し、この間法印に叙し、大僧正に任じ、応永35年には准后の宣下をうけている。満濟は賢俊の後をうけて室町將軍家に重用され、特に義持・義教の信任あつく、政務についてしばしば重要な献策をし、その権威は甚だ高かった。したがって本日記は単なる僧侶の日記というよりも、むしろ室町時代初期に於ける幕府側近者の日記の観があり、長年月に亘るその詳密にして正確な記事は政治史研究の重要史料として著名である。

【収録】(上) 1411 [応永18]~1428 [正長元]

(下) 1429 [正長2]~1435 [永享7]

## 看聞御記 全2冊・完結

かんもんぎよき

続群書類従補遺 2 上・下

B6判 揃1,386頁 揃10,500円 (本体10,000円+税5%)

(上)ISBN4-7971-0112-1 (1930.10)

B6判 628頁 5,250円 (本体5,000円+税5%)

(下)ISBN4-7971-0113-X (1930.10)

B6判 758頁 5,250円 (本体5,000円+税5%)

後崇光院貞成親王の応永23年(1416)から文安5年(1448)の日記。記主は崇光院の皇孫榮仁親王の第二子で、幼少の頃は今出川公直に養育された。後、元服と同時に伏見宮に戻り、応永24年兄治仁王の急死の後をうけ伏見宮家第三代の主となっている。又、同32年4月後小松上皇の猶子として親王宣下を受けたが、7月俄に出家し道欽と号した。正長元年称光天皇の崩御に当り、親王の第一子彦仁王が位につき後花園天皇となり、文安4年天皇の実父ということで太上天皇の尊号をうけている。かくして、本記は記主の日常生活についてはもちろん、後花園天皇踐祚に関する朝廷の動き、足利義教の肅清政治の様子、嘉吉の乱等朝幕を中心とする政局の動きを記し、また世間の巷説、市井の出来事、種々の芸能に関する記事等も豊富で当代の政治・文化・庶民生活等に関する貴重な史料となっている。

【収録】(上) 1416 [応永23] ~ 1431 [永享3]

(下) 1432 [永享4] ~ 1448 [文安5]

## 師郷 全6冊・完結

もろさとき

全6冊揃39,900円

①ISBN4-7971-0350-7 (70回配本 1985)

240頁 5,775円

②ISBN4-7971-0353-1 (73回配本 1985)

226頁 5,775円

③ISBN4-7971-0357-4 (77回配本 1986)

242頁 5,880円

④ISBN4-7971-0361-2 (81回配本 1987)

268頁 6,510円

⑤ISBN4-7971-0364-7 (84回配本 1988)

276頁 6,510円

⑥ISBN4-7971-1306-5 (126回配本 2001)

272頁 9,450円

大外記中原師郷自筆。応永27年(1420)1月から長禄2年(1458)12月まで、永享8年を欠きほぼ続く。『師守記』と同じく外記局務の書留で、政務・朝儀に関する記録を主とし、世上の事件についての師郷の見聞も並記されている。師茂・師守の家が六角と称され、師郷の家は押小路といわれた。六角家の断絶後、外記局務の記録は押小路家に伝えられたものと推定される。

【収録】

①1420 [応永27] ~ 1432 [永享4]

②1433 [永享5] ~ 1438 [永享10]

③1439 [永享11] ~ 1444 [嘉吉4]

④1445 [文安2] ~ 1448 [文安5]

⑤1449 [文安6] ~ 1454 [享徳3]

⑥1455 [享徳4] ~ 1458 [長禄2]・索引・解題

## 八木書店 出版部

Yagi Bookstore Ltd. Publishing Dept.

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-8

●TEL: 03-3291-2961 [営業] -2969 [編集] -6300 [FAX]

●E-mail: pub@books-yagi.co.jp ●Web: http://www.books-yagi.co.jp/pub

満濟准后日記研究会編・八木書店刊 (Tel:03-3291-2961/Fax:6300) 2010年12月刊行予定		取扱店 (番線印)
満濟准后日記人名索引 全1冊		( ) 冊
申込書	ISBN978-4-8406-2074-1 C3021 ¥11000E 定価 11,550円 (本体 11,000円 + 税 5%)	
お名前 (ふりがな)	TEL	
ご住所 〒	FAX	
	E-MAIL	

# 満濟准后日記人名索引

内容見本

八木書店

室町期研究の基本史料

20年の歳月をかけ

『満濟准后日記』

(続群書類従本)の人名索引、

遂に完成!

可能な限り人名の考証と比定を行ない、  
異称・別称の類もすべて採録。  
中世史を研究するすべての人に、  
待望の新索引!

満濟准后日記研究会編

二〇一〇年十二月刊行予定!

満濟准后日記研究会…1989年発足の研究会で、故高橋正彦氏（慶應義塾大学名誉教授）の研究室で行なわれていた輪読会が母体。本索引は、研究会（メンバー7名）の活動の集大成で、20年の歳月をかけて漸く完成したものである。

人名索引組見本

日野栄子母(御台御袋) 応永31.8.24 ㊤279下 御台御袋 (他界七十歳)	永享4.3.10 ㊤359上 永享5.10.10 ㊤515上 永享5.10.10 ㊤515上	母兼 阿古上障 日野一品重 光脚息女
日野量光 → 日野秀光 日野兼郷卿 → 広橋兼郷 日野烏丸 → 日野(烏丸)資任 日野烏丸入道 → 日野(烏丸)豊光 日野儀同(三司) → 日野資教 日野国盛 → 日野(日野西)盛光 日野黄門 → 広橋兼郷 日野策政 → 日野政光	日野春龍丸 → 広橋春龍丸 日野新中納言 → 日野秀光 日野(日野西)資国(大納言入道・日野大納言) 応永22.1.7 ㊤61上 応永22.6.13 ㊤71上 応永30.1.8 ㊤217下 正長元.8.23 ㊤527下	日野大納言 大納言入道 日野大納言 入道 大納言入道 兼口卿
日野(裏松)重光(裏松一位)・故裏松一位(一品) 応永18.1.11 ㊤7上 応永20.3.6 ㊤15上 応永20.3.16 ㊤15下 応永20.3.17 ㊤15下	日野資親 応永35.1.8 ㊤473上	左少弁資親
日野(裏松)重光(裏松一位)・故裏松一位(一品) 応永18.1.11 ㊤7上 応永20.3.6 ㊤15上 応永20.3.16 ㊤15下 応永20.3.17 ㊤15下	日野(烏丸)資任 永享2.1.8 ㊤117上 永享2.1.16 ㊤123下 永享2.1.19 ㊤125下 永享3.1.8 ㊤203下 永享3.1.19 ㊤209上 永享4.1.19 ㊤333上 永享6.4.19 ㊤569下 永享6.4.29 ㊤572上	日野資任 日野資任 資任 資任 資任 資任 日野烏丸資任 資任 日野烏丸 烏丸資任 資任新卒 品(一位入道・一品禪門・儀同三司))
日野(裏松)重光(裏松一位)・故裏松一位(一品) 応永18.1.11 ㊤7上 応永20.3.6 ㊤15上 応永20.3.16 ㊤15下 応永20.3.17 ㊤15下	日野資教(東洞院・日野大納言) 永享6.6.5 ㊤585上 永享6.6.24 ㊤591上 永享6.6.24 ㊤591上 永享6.12.24 ㊤635下	東洞院 東洞院一品 禪門 日野一品 日野一位入道 日野一品禪門 日野一位禪門宿所
日野(裏松)重光(裏松一位)・故裏松一位(一品) 応永18.1.11 ㊤7上 応永20.3.6 ㊤15上 応永20.3.16 ㊤15下 応永20.3.17 ㊤15下	日野(裏松)重光(裏松一位)・故裏松一位(一品) 永享3.11.19 ㊤312上 永享4.3.10 ㊤359上 永享5.10.10 ㊤515上	故裏松一品 重光脚息女 故裏松一品 重光脚息女 故裏松一品 重光脚息女

〔続群書類従本 本文〕

云々。參小川殿。浄土寺事承了。  
五日。甲申。  
六日。乙酉。公方様渡御相國寺。還御後令參申畢。裏松所勞大略難儀由被仰下畢。水本僧正出京。法樂連歌在之。弘尊法印白竺若屋出。百餘年斷絶。此參籠今度再興願真慮歎。  
七日。丙戌。卿坊來。灸治。  
八日。丁亥。公方様渡御等持院。還御以後令參申畢。地藏院御入室事申定。歸路參小川殿。公方不動護摩今曉結願。白御室御使大藏卿法眼。來月中下旬准后御灌頂嘆德事任何可有沙汰之出承了。依有存旨。堅辭退申了。  
九日。戊子。公方様渡御土岐亭云々。白御室重御使如昨日承。重辭申了。  
十日。己丑。公方様渡御上野亭云々。御室嘆德水本僧正可令勤仕由御使在之。辭退云々。  
十一日。庚寅。公方様渡御任慶法印宿所云々。院  
林勸。河原棧敷白今日被構。御棧救管領奉行云。田樂新座。等持寺入院。風呂在。理法印發行。  
十二日。辛卯。天降。午。御誕生日方々御祈毎月始行。今日殊可被修善事宿願秘說也。  
十三日。壬辰。  
十四日。癸巳。公方様渡御鳥山伊與宿所云々。  
十五日。甲午。尊勝陀羅尼千反供養法在之。每月儀。本地供八幡。毎月儀自身沙汰之。天下太平萬民快樂。室町殿御運長久。能々可令祈念。  
十六日。乙未。天降。巳。以。前裏松亭。相訪所勞事。如法御窮屈體也。金剛乘院五壇護摩勤仕。明日結願云々。念誦伴僧二人。五悔等聲明也。中壇阿闍梨唱禮。自餘助音。  
十七日。丙申。天降。申。裏松今曉圓寂。四十四。參御所様。而々群集。少々御對面歎。天下可爲觸

- 配列は、訓読による五十音順、ただし僧・女子は音読とした。
- 各項目は、人物名を掲げ、( )内に異称・註記を入れ、記載箇所年月日と巻数(上巻・下巻)・ページ数・段(上・下)を示し、末尾に掲出箇所の表記を入れて利用の便宜を計った。本文の表記から当該箇所を検索しやすくしてある。
- 各項目の採録については、原文主義とし、重複を厭わず異称・別称の類もすべて採り、ミヨ項→をもって( )内にまとめた〔官職・通称・幼名・所属寺院など〕。また、必要に応じて〈 〉( )内に註記を施した。

本書の特長

- 『満濟准后日記』上・下(続群書類従補遺一所収)の人名索引。
- 現在、流布本である続群書類従本は、上下二段組で傍注も頭注も付けられていない。本書に限らず、古記録に記載された人名は、時期によって変遷する通称(異称・官途名などで記され、実名で書かれることは少ない。本書では、可能な限り人名の比定を行ない読者の便宜を計った。
- 本索引により、知りたい人物を即座に検索し、時代を追って本文とあたる事が可能になった。また、難解な本書に登場する人物の、異称・別称を知り個々の関係を理解して本文を読解出来るようになった。

満濟准后日記とは?

醍醐寺七十四代座主満濟の、応永十八年(一四一一)〜永享七年(一四三五)の日記。  
満濟は、今小路師冬の子で、後に三代将軍足利義満の猶子となり、法身院准后とも呼ばれる。ついで義持の頃から護持僧となり、祈禱のみならず幕政の枢機にも参画した。政治・社会・経済・文学・芸能史の史料としても、しばしば引用される。  
足利義持・義教の時代の政治史料としても第一級で、同じく続群書類従本の『看聞御記』とならば室町前期の基本史料!